



県赤十字血液センター会津出張所の 紺野所長に聞く

命を救う献血にご協力ください！



今回は「献血」について、福島県赤十字血液センター会津出張所の紺野所長にインタビューしました。

県赤十字血液センター会津出張所
紺野 恭宏 所長

健康増進課 健康支援係
石川 皓也 副主査



※ 紺野所長 石川副主査

私たちが献血した血液はどのような人に届けられているのでしょうか？

出血を伴うけがや手術により輸血を必要としている人や、正常な血液を作ることのできない白血病などの血液の病気や抗がん剤による治療をしているがん患者さんに届けられています。輸血を行っている病院は全国に1万施設、患者さんは年間100万人以上います。

現在、血液の機能を完全に代替できる手段は存在しないため、医療において輸血は欠かすことのできない治療法です。また、血液は生きた細胞が含まれているため献血してから輸血に使用できる期間が限られています。そのため、皆さんの協力により必要な血液を常に確保し続けなければ現代医療は成り立たないのです。

病気の治療にも使用されていることが分かると、献血をより身近に感じますね。健康な人が献血に取り組む意味は大きいと感じました。

災害や病気はいつ自分に降りかかるか分かりません。また、献血は少し痛いですが必要としている人のためであり心の充足感も得られるのではないのでしょうか。献血バスを見かけたらぜひご協力をお願いいたします。



▲献血バス



県赤十字血液センターのホームページはこちら

町では10月29日（日）の西会津ふるさとまつりで献血を実施予定です。皆様のご協力をお願いします。

献血に協力した皆さんの声



かんの なぎさ
菅野 凪沙 さん

母がよく献血をしていたので、私もやってみようと思い、お手伝いさせていただきました。痛みが弱いため、最初はとても緊張しましたが、大きな痛みはなく、また看護師さんが優しく声をかけてくださるので安心して献血することができました。記念品がたくさんもらえるのも嬉しいポイントです。



えがわ まさき
江川 正樹 さん

献血は、輸血を必要としている患者さんの命を救うために、健康な人が自らの血液を無償で提供する「ボランティア」です。私なんかでも、人の役に立てる、それが「献血」です。人の役に立てるような生き方をしていきたい。私の中で献血は、「使命」として位置づけています。生涯続けていく所存です。